

ストーリーの構成文化財の説明

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ
1	つるがおかはちまんぐう 鶴岡八幡宮	国史跡、 国重文（建造物）、 県史跡、市指定 （建造物、天然記念物）	源頼朝が鎌倉のまちの中心に据えた、武家政権の守護神。 武家政権と武家から篤く崇敬されたことに加え、幕府の宗教政策上の中心的な施設として、公式行事が執り行われるなど、政治・儀礼の舞台としても重要な場所であった。
2	わかみやおおじ 若宮大路	国史跡、国重文（建造物）	鶴岡八幡宮の参道。頼朝が妻・政子の安産を願って造ったもので、中世から変わらず「鎌倉」の中心軸となる道である。 中央に一段高い道、段葛がある。
3	えがらてんじんじや 荏柄天神社	国史跡、重文（建造物）	頼朝により、幕府の鬼門（北東）を鎮護する神として祀られた。また、鎌倉文士が中心となって立ち上げた鎌倉ペンクラブの一員であった漫画家横山隆一による絵筆塚がある。
4	かまくらぐう 鎌倉宮	未指定	明治天皇の勅命によって創建され、南北朝期に非業の死を遂げた護良親王を祭神とする神社。創建後、皇族や華族が鎌倉を訪れ、御用邸、別荘が建てられる契機の一つとなった。 作家立原正秋がここで執り行われる能を題材として『薪能』を著わすなど、文士の創作の舞台ともなった。
5	ごりようじんじや 御霊神社	県指定（無形民俗）、市指定（有形民俗）、市（天然記念物）	鎌倉の特徴的行事の一つで、中世の「伎楽面風流」に起源があるとされる面掛行列が行われる。 小説家で詩人の国木田独歩が境内やその近くに住むなど、文士の創作活動が行われた。
6	こゆるぎじんじや 小動神社	未指定	海に突き出した小動山に建ち、相模湾を一望する。頼朝に仕えた佐々木盛綱による創建。 小説家太宰治が小動岬で心中を図り、その体験を『道化の華』に著わすなど、文士の創作の舞台となった。

7	<small>ぜにあらいべんざいてん う が ふくじんじや</small> 銭洗弁財天宇賀福神社	未指定	文治元年（1185）の巳の月の巳の日に宇賀福神が頼朝の夢に現れ、その教えに従いこの地に宇賀福神を祀ったところ、平安な世が訪れたとの言い伝えがある。
8	<small>かまくらだいぶつ</small> 鎌倉大仏 （銅造阿弥陀如来坐像）	国史跡、 国宝（彫刻）	武家政権と民衆の安寧を願って造立された鑄造仏。中世に鑄造されたときそのまま露座に佇むその姿は、多くの作品の題材となった。長谷の大仏裏に住んでいた大佛次郎は筆名を、大仏を太郎とし、自らは次郎と謙遜し名付けたとのエピソードがある。歌人と謝野晶子が「美男におはす」と詠んだことでも知られる。
9	<small>けんちようじ</small> 建長寺	国史跡、重文 （建造物）、 国名勝、県指 定（建造 物）、市指定 （天然記念 物）	鎌倉五山の第一位。鎌倉時代、第五代執権北条時頼によって建立された日本初の禅宗専門寺院。付近には亀ヶ谷坂の切通があり、鎌倉の交通上・防衛上の重要な箇所だった。
10	<small>えんがくじ</small> 円覚寺	国史跡、 国宝（建造 物）、県指定 （建造物）、 市指定（建造 物、天然記念 物）、国名勝	鎌倉五山の第二位。建長寺に続き建立された禅宗専門寺院。夏目漱石が『門』の中で描いた他、島崎藤村、有島武郎らも執筆のために訪れるなど、多くの文士の創作の舞台や創作活動の場となった。
11	<small>じゅふくじ</small> 寿福寺	国史跡、市指 定（建造物、 天然記念物）	鎌倉五山の第三位。頼朝の父、源義朝の館跡と伝えられ、源氏の由緒を示す。茶を広めた栄西がひらいた鎌倉最初の禅宗寺院。詩人中原中也が亡くなる直前に境内に住まうなど、文士の創作活動の場となった。 ※拝観は中門まで
12	<small>じようちじ</small> 浄智寺	国史跡	鎌倉五山の第四位。第五代執権北条時頼の三男である北条宗政の菩提を弔うために創建された禅宗寺院。日本画家小倉遊亀が近くに暮らし、創作活動を行った。
13	<small>じようみようじ</small> 浄妙寺	国史跡	鎌倉五山の第五位。頼朝の忠臣で剛勇の武士であった足利義兼によって創建された。室町時代に鎌倉公方として東国の政権を担った足利氏の菩提寺。

14	すぎもとでら 杉本寺	県指定（建造物）	天平の頃に建立されたと伝わる鎌倉最古の寺院。頼朝が修造を行った。
15	ほうかいじ 宝戒寺	未指定	北条氏滅亡後、その霊を弔うため、北条氏得宗家の屋敷跡に建立された。
16	かくおんじ 覚園寺	国史跡、重文（建造物）、 県指定（建造物）、 県史跡	第二代執権北条義時が1218年に大倉薬師堂を建立したのが始まり。1296年に真言・天台・禅・浄土の四宗兼学道場として整備された。境内は中世の面影をよく残している。
17	じょうこうみょうじ 浄光明寺	国史跡、重文（建造物）、 市指定（建造物）、 市史跡	第六代執権北条長時が創建。室町時代には鎌倉公方の菩提寺となった。亀ヶ谷坂の切通近くに位置し、鎌倉の交通上及び防御上の最も重要な地域に営まれた寺院である。
18	みょうおういん 明王院	未指定	鎌倉幕府の第四代将軍藤原頼経により国家の安泰を祈願して建立され、以後、幕府・将軍家の祈願所として重んじられた。鎌倉将軍家建立の寺としては現存する唯一のものである。
19	じょうじゆいん 成就院	市文化財（建造物）	第三代執権北条泰時により、鎌倉の守りとして極楽寺坂脇に建立された。1333年、幕府が滅亡した鎌倉攻めの際に焼失し、一時別の場所に移されたが、江戸時代に元の場所に再建された。
20	えいしょうじ 英勝寺	重文（建造物）	徳川家康の側室となったお梶の方が祖先太田道灌の屋敷跡に建立させた。徳川光圀が鎌倉や武州金沢の史跡・名勝を巡覧した際、宿所とした。
21	こうみょうじ 光明寺	重文（建造物）、 県指定（建造物）、 市指定（建造物）、 市史跡	浄土宗の大本山。第四代執権北条経時の創建。戦後復興の過程で、文人・学者等が集まって開校した市民大学「鎌倉アカデミア」の仮校舎となった。

22	めいげついん 明月院	国史跡	山ノ内俊道追善の為、嫡子経俊が創建の明月庵が元。約百年後第五代執権北条時頼が出家のため建立した最明寺を前身に、息子時宗が禅興寺を再興。更に百年後、上杉憲方が支院の首位に置く。時代の変遷とともにその由緒を伝えている。
23	ほうこくじ 報国寺	未指定	竹寺として知られる禅宗寺院。足利氏の祖先供養のため上杉氏が開いた。
24	とうけいじ 東慶寺	未指定	第八代執権北条時宗夫人の覚山志道尼が開創。駆け込めば離縁できる女人救済の寺として、明治に至るまで縁切りの寺法を引き継いできた。
25	ずいせんじ 瑞泉寺	国史跡、国名勝	鎌倉公方の菩提寺とされた禅宗寺院。岩盤を穿った庭園は、禅の思想と庭が融合したものである。鎌倉における禅宗文学の中心の一つ。作家永井龍男が『秋』の舞台とするなど、文士の創作の舞台となった。
26	ほんがくじ 本覚寺	未指定	境内は「吾妻鏡」に見える夷堂の地といわれている。身延山から日蓮の遺骨を分骨して納められた。
27	みょうほんじ 妙本寺	未指定	日蓮開山の、日蓮宗最古の寺院。北条一族によって滅ぼされた比企一族を弔うために建立された。
28	あんこくろんじ 安国論寺	未指定	日蓮宗の寺院。日蓮が草庵を結び「立正安国論」を著わした場所とされる。
29	ごくらくじ 極楽寺	国史跡、重文(建造物)	第二代執権北条義時の三男、重時が建立した真言律宗の寺院。極楽寺坂の切通という鎌倉から京都方面へ向かう交通上また防衛上の重要な箇所配置された。
30	はせでら 長谷寺	市文化財(建造物)	古くから坂東観音霊場の第四番札所として民衆の信仰を集めてきた。評論家高山樗牛が境内の慈眼院やその隣接地に居住するなど、文士の創作活動の場となった。

31	おおまちしゃかどうぐち 大町釈迦堂口遺跡	国史跡	釈迦堂切通は、浄明寺と大町を往来する道。 作家永井路子が『炎環』を著わすなど、文士の創作の舞台となった。 ※現在通行できません。
32	ほっけどうあと 法華堂跡 (源頼朝墓・北条義時墓)	国史跡	頼朝と第二代執権北条義時の死後の冥福を祈る建物(法華堂)が建てられた跡であり、現在は石塔が建っている。
33	ようふくじあと 永福寺跡	国史跡	頼朝が、奥州藤原氏、弟源義経をはじめ合戦による戦死者の冥福を祈って建設した寺院跡。将軍家の別荘的性格も持っていた。当時の伽藍配置やその変遷、苑池や鑓水などの遺構が良好な状態で保存されている。
34	あさいなきりどおし 朝夷奈切通	国史跡	中世都市鎌倉の内外を結ぶための交通路として造られた。
35	けはいざか 仮粧坂	国史跡	
36	だいぶつきりどおし 大仏切通	国史跡	
37	なごえきりどおし 名越切通	国史跡	
38	鎌倉文学館 (旧前田家鎌倉別邸)	国登録有形文化財	
39	きゅうかちょうのみやてい 旧華頂宮邸	国登録有形文化財、市景観重要建築物等	鎌倉三大洋館の一つ。華頂博信侯爵が自身の邸として建てた。洋風民家が幾何学式庭園、樹木と一体となり、往時の華やかな暮らしを彷彿とさせる。 ※庭園のみ公開。建物内部公開の期間は春と秋の2回、計4日間(無料)。

40	きゅうかわきたていべつてい 旧川喜多邸別邸 (旧和辻邸)	景観重要建造物	生涯を通じて外国映画の輸入と配給、海外への日本映画紹介などに情熱を注いだ川喜多夫妻ゆかりの建物。東京にあった哲学者和辻哲郎の住宅を移築したもので、もとは大山にあった古民家を解体移築したと伝わる。夫妻はここを海外から訪れる映画監督やスターたちを迎える場とした。 ※公開日やイベント時に見学可。
41	せんこさんそう 扇湖山荘	未指定	古都鎌倉の風情に惹かれた「ワカモト製菓」創業者の長尾欣彌が別荘として建てた。杉木立から海が扇形に見えることから名付けられた。 ※春と秋の公開日に庭園を一般公開（無料、建物内部には入れません）。
42	はせ 長谷子ども会館 (旧諸戸邸)	国登録有形文化財、市景観重要建築物等	株式仲買人として財を成した福島浪蔵の別邸として建てられ、後に諸戸清六別邸となった。明治期の住宅建築の貴重な遺構であり、造形意匠の密度においては、県内でも最高のものである。 ※内部非公開。入館できません。
43	よしやのぶこ 吉屋信子記念館	未指定	小説家吉屋信子が暮らした邸宅が、ありし日のままに保存されている。建物は、吉田五十八（近代数寄屋建築の第一人者）により設計されたもの。 ※5、6、10、11月の1～3日、4、5、6、10、11月の土曜、5、6月の日曜、ゴールデンウィークに公開。公開日以外は学習施設として利用可。
44	石川邸 (旧里見淳邸)	市景観重要建築物等	鎌倉文士の中心的存在であった作家里見淳が自ら設計に関り、住んだ家である。 ※現在は西御門サローネとして見学可。月曜 11:00～16:00。
45	こがてい 古我邸	未指定	鎌倉三大洋館の一つ。三菱合資会社（後の三菱財閥）の専務理事兼管事をしていた荘清次郎の別荘として建てられた。 ※現在、レストラン、カフェとして営業中。
46	らいてい 樞亭	国登録有形文化財、市景観重要建築物等	鎌倉山の分譲を行った菅原通斉の父であり、鉄道事業家・土木技術者として知られる菅原恒覧の別荘として建てられた。 本館は、江戸時代の建造で横浜市戸塚の豪農の旧宅を移転改築し、和洋折衷の住宅としたもの。 ※現在、蕎麦、会席料理店として営業中。
47	すんしょうどう 寸松堂	市景観重要建築物等	別荘地化の中で発展した鎌倉彫、その歴史を今に伝える商店兼住宅として貴重な存在である。 ※建物内部は店舗部分のみ公開。
48	はくじつどう 白日堂	市景観重要建築物等	別荘地化の中で発展した鎌倉彫、その歴史を今に伝える商店兼住宅として貴重な存在である。 ※建物内部は店舗部分のみ公開。

49	みかわや 三河屋本店	国登録有形文化財、市景観重要建築物等	明治 33 年創業の酒店で、伝統的な出桁造りの店構えが若宮大路の沿道でひときわ目を引く。観光地として発展した鎌倉の姿を想起させる。 ※建物内部は店舗部分のみ公開。
50	ゆあさ 湯浅物産館	市景観重要建築物等	明治 30 年に貝細工の製造加工・卸売りの店舗として創業した。若宮大路の中ほどに位置し、観光地として発展した鎌倉の姿を想起させる。 ※建物内部は店舗部分のみ公開。
51	やぶさめ 流鏑馬	未指定	武者姿の射手が疾走する馬上から 3 つの的を射抜く鎌倉時代からの伝統神事。頼朝が鶴岡八幡宮の放生会で奉納した流鏑馬が始まりとされる。
52	ぼんぼり（雪洞）祭	未指定	毎年 8 月に鶴岡八幡宮境内で行われる、鎌倉の夏の風物詩ともいえる祭。鎌倉ペンクラブのメンバーが中心となってぼんぼりを並べたのが始まり。
53	鎌倉名所記	未指定	江戸時代の鎌倉の名所をまとめた案内記。名所めぐりの際に携帯するためのいわばガイドブックである。
54	かまくらぼり 鎌倉彫	経産省大臣指定伝統的工芸品	鎌倉を代表する伝統的工芸品。13 世紀半ばに禅宗の移入に伴い宋から伝えられた美術工芸品を祖とする。近代以降、鎌倉が別荘地となる中で発展、浸透した。
55	きゅうかながわけんりつきんだい 旧神奈川県立近代 びじゅつかんかまくらかんほんかん 美術館鎌倉館本館	県指定（建造物）	現代建築の巨匠ル・コルビュジェに師事した坂倉準三設計の建築で、日本初の公立近代美術館。日本の近代美術を牽引すると同時に、近代芸術の新たな文化を創出した拠点の一つ。
56	しんれいきょうかまくられんせいじょう 神霊教鎌倉錬成場 きゅうやまもとじょうた ろうてい （旧山本条太郎邸）	国登録有形文化財（建造物）	南満州鉄道株式会社総裁を務めた山本条太郎の別荘として建てられた。敷地や庭も含め、創建当初の建物がほぼ完全に現存しており、当時の生活像を伺うことができる貴重な建物。 ※見学は事前受付による団体のみ可。